

2004 年度山谷夜回りの会活動報告

2004.4.6

文責 村井

1 はじめに

山谷夜回りの会をご支援頂きありがとうございます。本年度の当会の活動報告書を皆様のお手元に送らせていただきます。

当会は2002年度まで、フランシスコ会中谷神父主催の『山里の家』の炊き出しグループとして活動してまいりましたが、中谷師の体力的な問題などの事情により昨年度より『山谷夜回りの会』として活動を始めました。

炊き出しの形式が安定するまで紆余曲折は経りましたが、昨年度秋より隅田川沿いの白鬚橋と桜橋を中心に月に二回の炊き出しを行う形でなんとか継続してまいりました。そして今年度もたくさんの方からお祈りと、様々なご支援をいただき、一年間続けていくことができました。どうもありがとうございました。来年度からもどうぞよろしくお願いいたします。

簡単ながら今年一年間の炊き出しの様子をご報告させていただきたいと思っております。

2 おむすび

お配りできたおむすびの数ですが、一年間の炊き出し（小規模のものも含めて23回）で11792個になります。前年度に比べて3割ほど増えており、お米の量に換算すると全部で約850kgです。おむすびは今年度もカトリック町田教会と松戸教会で山谷支援の有志の皆様が午前中に作ってくださったものを中心に、夜担当のボランティアが持参したものを合わせてお配りさせていただきました。

お一人当たり二個ですので、平均して一回の炊き出しあたり約250名ほどの方にお渡ししている計算になります。今年度は白鬚橋、桜橋を先に回ってから他の公園や商店街の軒下を回る形でした。数としましては橋周辺ではおおよそ400個（200人分）をお配りし、それ以外を城北福祉センター近辺の道路、玉姫・清川公園、職安前、いろは商店街軒下などで野宿されている方々にお届けいたしました。

3 衣類、毛布、日用品

まず衣類ですが、一年を通じて需要が高いのが下着類です。特に靴下は缶集めなどで一日の間かなりの距離を移動される方も多く、あればあるだけのすべてがすぐなくなるような状態でした。また10月に入った辺りから防寒具の需要が急激に増え、ジャンパーがいくらあっても足りないような状態が3月の頭まで続きました。それ以外の衣類に関しましては、いただいたご寄付と炊き出しにいらした皆さんの需要とがほぼ釣り合うような感じであったように思います。ただ季節外れのものはやはりどなたもお持ちにならないので、保管場所の関係上仕方なく処分させていただいたものもございました。倉庫などがございませんので防寒着等も9月末まで送っていただくのをお待ちいただくとありがたく思います。

毛布ですが、やはりなかなかご寄付でいただいた分では数がそろいませんので、昨年度より中古のものを一枚400円で購入してお配りしております。冬を越せずに、また冬の間体力を消耗しきって春先に、お亡くなりになる方がいらっしゃいますので、冬場の毛布の確保は優先的な問題と考えております。

日用品ですが、タオル・髭剃りが特に需要が高く、大口のご寄付をいただけたとき以外は品薄な状態が続いておりました。石鹸・歯ブラシなどはご寄付でいただいた量でほぼ行き渡ってございました。

4 ボランティア

一回の炊き出し平均で昨年度の17人から今年度12人と昨年度に比べて夜回りの参加者は大分減っています。

少々人数的に厳しいときもございますが、新しい炊き出しの仕方にも慣れ、効率的に動けるようになってきたので今のところは大きな支障は出ておりません。ただもう少し人数的に余裕があれば夜回りの場所も増やせるし、山谷の皆さんのニーズにもよりよく応えることが出来るような気がいたします。

ホームページを見ておいでになる方は大体一月に1から2名ほどいらっしゃいますが、時間がかかり遅くなる場合もありますし、夜間は電車の本数も大分減るため、次の日の仕事などがありますと継続的に参加することは難しいかもしれません。それぞれのペースで無理せず、こられるときに来ていただければと考えております。

また、山谷の現状をより多くの方に見ていただくことでホームレスの方々のことを身近に感じてくださる方がお一人でも増えてくださればと願っております。

5 会計

今年度もお米のご寄付を大量に送っていただき、また梅干などの食材もたくさんのご寄付をいただきました。

さらに町田・松戸両教会とメンバーの皆様からも多大なご負担をいただき、毎回の炊き出しの食材をまかなっていただきました。そのためいただきました献金は、ご寄付では集まりにくい越冬対策用の毛布や下着類を重点的に購入し、配布するためにつかわせていただく形といたしました。

毛布の枚数ですが、山谷地域で必要とされている量としてはもっと多いのですが、こちらの輸送能力の限界で炊き出し一回あたりの最大量が決まってしまう現状があります。ただ下着類の方は、現在の量で炊き出しにいらしている方の必要はほぼ満たせてきているように感じております。

繰越金は来年度の食材購入費に当てさせていただきたいと考えております。

6 今年度の傾向

年間の傾向としましては、雨で工事現場などが休みがちになる5月から6月がもっとも野宿の方の人数が多く、行政の越冬施設が稼働している12月から2月ごろは比較的少なくなります。またテント暮らしの方たちの人数は行政の撤去によっても大分変動いたします。撤去があるとしばらくは別の地域に移られるのですが、少し経つとまた戻っていらっしゃるようです。

橋周辺にお住まいの方々は、お花見・花火シーズンの間に行われる撤去やそれ以外にも定期的に行われる区の撤去などで、いらっしゃる人数がかなり変わりますが、都と区が進めておりますホームレス対策事業で自立支援のための寮に入られた方も出てきているようです。

ただ、行政のサポートは期限付きですので、その期間中に定職に就けなければまたホームレス生活に戻るしかありません。長年の肉体労働で体のあちこちに不調を抱えていらっしゃる山谷の皆様が、この不況の中で新しく職業を探すのは難しいことを考えますと、この政策ではホームレス暮らしから抜け出せない方も多いのではないかと感じています。もちろんこれにより再就職できる方もいらっしゃるでしょうから、公園や高架下からの排除を目的としない範囲で、このような政策は続けていただきたいと思います。

この流れが今後どちらに向かっていくのか分かるまでには、もう少し時間がかかるような気がいたします。

7 今後の展望

この一年間の間にも、ホームレスの方たちに対するさまざまな動きがありました。新しい支援策や、支援活動が行われる一方で、ホームレスの方たちに対する根強い偏見や襲撃事件も無くなってはおりません。

社会の中で、利用できるだけ利用され、使い捨てにされた方たちに対して、出て行けとか、もっと働けというのではなく、同じ人間としてその痛みを共感しながら、その方たちのペースでともに歩むような道はないものではないでしょうか。

たくさんの皆様に支えられながら、わたしたちなりにできることを模索しつつ、今年度も活動を続けてまいりました。わたしたちにできることは大変小さなことではありますが、一人一人が弱い立場に置かれた方のことを思いながら、自分に出来ることを続けていくことが大切なのではないかと思っております。

わたくしたちの活動は支えてくださるたくさんの皆様のおかげではじめて成り立っております。来年度もまたこの活動を続けていくために、皆様のあたたかいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

2004年度山谷夜回りの会会計報告書

(2004年4月1日～2005年3月31日)

(単位:円)

	科目	金額
1. 収入の部(A)	前年度繰越金	50143
	前年度余剰金 1	2200
	寄付金収入	399063
	合計	451406
2. 支出の部(B)	毛布代(540枚)	216400
	衣類・日用品代	118638
	照明代	2775
	合計	337813
3. 次年度繰越金(A-B)		113593

1「前年度余剰金」は、前年度の「通信費」の余剰金(釣り銭)分。